

資料2

「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会」
(第1回) H23.9.2

薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しに関する意向調査結果

	①コア・カリキュラムの見直しの必要性について	②あるべき検討期間について	③あるべき改訂後のモデル・コアカリキュラムの実施時期について	④あるべき見直し検討の実施主体について	⑤その他
国公立大学薬学部 長(科長・学長)会議	有 ・各大学が独自性を発揮できるようにコアの部分を選りすぐること、6年制と4年制の違いに配慮すること、SBOの内容が不均一である、などの意見が見られた。	23年度末まで、という意見が多い。	24年度、25年度が多い	検討終了後の翌年度、完成年度後とする意見が多い。	文部科学省の調査研究協力者会議が多いが、全国学長・学部長会議、薬学教育協議会、日本薬学会、それらの合同などの意見も見られた。 ・各大学から1名以上の代表を出すべき ・薬局と病院の役割分担の明確化 ・一部をアドバンストへ移行するなど、共用試験・実務実習それぞれの時点で必要な項目の整理などの意見が見られた。
日本私立薬科大学 協会	有 現在、モデル・コアカリキュラムについて様々な問題点が指摘されている。特に実務実習モデル・コアカリキュラムについては問題があるのではないかという意見が多い。	①早急に対応して改訂すべき事項(法律の改正等による変更、社会的要請、誤り等)については、すみやかに検討を開始し、 ②モデル・コアカリキュラム全体については、教育を受けた学生が1~2回卒業するまで待つ教育効果の検証を行い、改訂の具体的な検討を開始すべきである。		改訂後のモデル・コアカリキュラムを各大学、関係機関に周知し、各大学等での具体的なカリキュラムの検討の期間を考慮し、すみやかに実施すべきである。	文部科学省の調査研究協力者会議 ・文部科学省(例えば調査研究協力者会議)においてモデル・コアカリキュラム改訂に関する恒常的な体制を設置し、文部科学省が主催して行うべきである。 ・この恒常的な組織は、早急に設置し、すみやかに検討に入れるよう準備しておく必要がある。

薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しに関する意向調査結果

	①コア・カリキュラムの見直しの必要性について	②あるべき検討期間について	③あるべき改訂後のモデル・コアカリキュラムの実施時期について	④あるべき見直し検討の実施主体について	⑤その他
日本病院薬剤師会	<p>有</p> <p>薬学教育モデル・コアカリキュラムについては細部では改定しなければならないところもあるが、早急な改定が必要なのは実務実習モデル・コアカリキュラムである。現在の実務実習モデル・コアカリキュラムが作成されてから相当の年月が経過し、医療期間における薬剤師の役割も病棟活動を中心に多様化・拡大している。特に、チーム医療の一員としての薬剤師の役割が重視されるようになってきている。実務実習モデル・コアカリキュラムにおける最も大きな問題点は、薬剤師がどうあるべきかという全体的なコアコンセプトが不完全である。</p>	<p>可及的速やかに</p>	<p>「求められる薬剤師」の養成を達成できる内容でないため</p>	<p>改定後、次年度から</p>	<p>受け入れ施設に周知徹底するためには、最低でも半年は必要。重要度の高い項目から改定し、何度か手直しをしていく必要がある。</p> <p>文部科学省の調査研究協力者会議</p> <p>実務実習の一般目標は、「薬剤師として、一人の患者のケアをで計画でき、行動できるような基本的知識、技能、態度を修得する」とすべきである。その上で、どのような実務実習が医療人としての薬剤師を養成するために必要かを検討する必要がある。</p> <p>現在のコア・カリキュラムは、医療施設あるいは医療提供施設における薬剤師の業務を並べたに過ぎない。医学における実習と同様に、患者を中心とした実習内容とすべきであり、学ぶ必要のある疾患(ある意味でのcommon diseases、例えば、高血圧、糖尿病、がん、精神疾患など)を基本とする。病院にあっては、入院から退院まで、実習生が一人の患者を担当(指導者のもと)するなどが必要。また、多様な施設を経験することも必要である。</p>

薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しに関する意向調査結果

	①コア・カリキュラムの見直しの必要性について	②あるべき検討期間について		③あるべき改訂後のモデル・コアカリキュラムの実施時期について		④あるべき見直し検討の実施主体について	⑤その他
日本病院薬剤師会	<p>また、内容が詳細・多岐に渡っているため、本来の医療機関における実習の意義が薄れている。コアと称しながら、細部にわたって記載されているものと、大まかな記載のものとの差が激しい(特に基礎と比べて)。あくまで「コア」であるからには、詳細は実施する教育機関の自由度にある程度任せる必要もある。</p>						
日本薬剤師会	<p>有 モデル・コアカリキュラムを作成して約8年が経過し、学術の進歩及び薬剤師業務の変化等のため見直しが必要である。</p>	平成 22 年度中に	速やかな対応が必要。	関係者に周知後、速やかに。	改訂後速やかに実施すべきだが、実習を受け入れる施設の薬剤師に周知するには一定期間必要であり、その点を十分配慮願いたい。	文部科学省	医療、薬学は常に変化しており、カリキュラムの見直しも重要であるが、教育の現場は、常に最先端の医療教育を行う体制を整備することが重要である。見直しを行うに当たって、関係者は、常にこの点に留意いただくようお願いしたい。

薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しに関する意向調査結果

		①コア・カリキュラムの見直しの必要性について	②あるべき検討期間について	③あるべき改訂後のモデル・コアカリキュラムの実施時期について	④あるべき見直し検討の実施主体について	⑤その他		
薬学教育協議会	有	作成されてから時間がたっているため、薬学教育のニーズやカートの置かれ方も分野によっては大きく変化してきている。モデル・コアカリキュラムに沿った教育が終了した段階で、カリキュラム全体について問題点と長所を洗い出し、必要があれば見直しをする。事前学習と実務実習の部分については全体のモデル・コアカリキュラムに先行して検討を開始し、ここには実務家教員の参画を希望する。	平成 22 年 6 月 ~ 平成 26 年 3 月	実務実習事前学習と病院・薬局実務実習が終了する平成22年7月から検討するため、6月から準備を開始する。	平成 24 年度(最短期間でも)	実務実習に関しては平成24年度を目途とするが、全体のモデル・コアカリキュラムについては内容にも依るが、関係団体の意見調整など、かなりの期間をおく必要がある。	一般社団法人薬学教育協議会【充実化のための調査研究】文部科学省の調査研究協力者会議【見直し実施の主体】	当面は問題点や長所を収集する作業が必要であり、薬学教育協議会として調査研究委員会を立ち上げて進める。文部科学省の大学における医療人養成推進等委託事業として実施することを希望する。モデル・コアカリキュラム全体の見直しについては、将来発展的に伸ばしたい職域・学問研究分野について明確なビジョンを形成するための薬学教育指導者の議論の場が必要である。
薬学教育改革大学人会議	有	学問体系は時とともに変わるものであるから、定期的な見直しは必要。		早急に行うべきである。			その他(文部科学省 医学教育課)	
日本薬剤師研修センター	有	実習の実績を反映させる必要がある。	早急に行うべきである。					

薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しに関する意向調査結果

①コア・カリキュラムの見直しの必要性について		②あるべき検討期間について		③あるべき改訂後のモデル・コアカリキュラムの実施時期について		④あるべき見直し検討の実施主体について		⑤その他	
全国薬科大学長・学部長会議	有	現在、モデル・コアカリキュラムについて様々な問題点が指摘されている。特に実務実習において。		恒常的な組織の下で、すみやかに検討に入る。		モデル・コアカリキュラムの改訂作業及び各大学でのカリキュラム改正に要する期間を勘案し、出来るだけ早く実施する。		文部科学省の調査研究協力者会議	
薬学教育評価機構	有	6年制が完成し、評価が1クールするまでは変えられないが、見直す時期に来ていると思う。		3-4年は必要である。		平成 30年度		文部科学省の調査研究協力者会議	

薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しに関する意向調査結果

	①コア・カリキュラムの見直しの必要性について	②あるべき検討期間について		③あるべき改訂後のモデル・コアカリキュラムの実施時期について		④あるべき見直し検討の実施主体について	⑤その他
薬学共用試験センター	<p>薬学共用試験は、CBT、OSCEともに、両モデル・コアカリキュラムに沿って実施され始めたばかりであり、仮にモデル・コアカリキュラムが改訂されるとすれば、それに沿った共用試験に(内容を)変えていかなければならない。それには(改訂後)相当な時間と経費がかかることを承知願いたい。見直しの必要性の有無については、薬学共用試験センターは、「全国薬科大学長・薬学部長会議」のもとに設置されたNPO法人として、両モデル・コアカリキュラムに沿って薬学共用試験を実施する組織であることから特別の意見は差し控えたい。</p>		<p>上記①に記載の理由により、特別の意見なし。</p>		<p>上記①に記載の理由により、特別の意見なし。</p>	<p>一般社団法人薬学教育協議会 全国薬科大学長・薬学部長会議</p>	